ありのまま自立大賞　創設にあたって

社会福祉法人ありのまま舎
専務理事　　山田　富也

私がこの賞を考え発想し、それを実行するにあたって、考えたことを整理しますと、次のようになります。

1　ありのまま舎総裁の殿下が常におっしゃっておられるように、常に前向きに生きようとしている方やそれを支援している方々を念頭においています。

一言でいいますと、「生きること」に貪欲で積極的な方と言えます。
たとえ、ベッド上の生活であっても、たとえ瞼しか動かせないとしても、残された可能性を最大限生かして、自分がやりたいことを実践している人々のことを広く国民に伝え、そこにも「障害」や「難病」をこえた「自立した生活」があることを知って頂きたいと思います。

2　どのような環境下でも前向きに生き、自分の人生は自分で切り開こうとする方々やそれらの人を支援している方々を考えています。

たとえ、施設に暮らしていても、その与えられた暮らしに甘えることなく、自分の人生、生きざまを貫き、より高い理想を求めて生きる方は「自立した生活」を営んでいるとはいえないでしょうか。
たとえば、創作活動で社会的にも高い評価を受け、世に認められるような方等。

3　障害の重い軽いにかかわらず、自分の能力を高めるために努力を怠らず、その成果をあげつつある方々を発掘し、障害の種類、重さに関係なく「自立生活」のあり方を問いたいと思います。

軽度の障害の方は、重度の障害者に比してその努力が周囲に認められないこともあります。たとえば、これぐらいはできて当たり前という見方をされがちですが、それだけ厳しい目で見られる中で、実績をあげなければならない人々の努力は並外れたものを感じます。
そうした、正当に評価されにくい点に着目し、「自立生活」の意味を問いたいと思います。

以上のことをまとめますと、これまで比較的「自立」というと、経済的・介護面での自立を指すことが多かったと思います。
それだけではなく、精神的自立・個々の能力的開花＝自立というとらえ方も大切ではないでしょうか。
「障害」「難病」と言いましても様々です。いろんな自立のあり方があって良いと思います。私の中にありますものは、「生きる」ことへのこだわりです。
新たな自立の概念を打ち立てるような気持ちでこの賞を創設致しました。
どうかその思いをご理解頂き、より「生きやすい」社会への一助となるような賞に育てて頂きたいと存じます。